

にも釋しぬれば、オホ子とは其根の大きなるをいひし也。李東璧本草には、爾雅註を引て、紫花菘、俗呼温菘似蕪菁、大根一名蘆菔、今謂之蘿蔔是也。菘とは葉名、菜菔とは根名也。と云ひけり。此説の如きは、菘といひ菘といふもと是一物にして、たゞ其根と葉とを呼ぶ所同じからぬなり。倭名鈔の如きは、温菘、菜菔別に分載せて、温菘を呼びてコホ子といひしは、これもまた其根の噉ふべきをもて、此名ありと見えたり。さらば今俗に細根大根などいふもの、類にして、是又我國の方言にぞあるべき。コホ子の義は不詳。舊考事見えたれば、其根の大きなるを云ひしとは見えたれど、温菘をばコホ子といひしにや、また骨蓬を呼びてカハホ子といひしは、大の謂なるべし。たゞその詳なる事を知らす。

〔物類稱呼三生植〕菜菔だいこん はだの大根、相州波多野名産也。江戸にてはだなと云是也。語也 轉京にてながね大根と云、大坂天満にてはそね大根といふ。又宮の前の大根と云、河州守口にて、是をもつて舶賣と す。西國にて小大根と云、はだの大根は、小大根 又畿内にてなかぬき大こんといふを、江戸にてをろぬき大こんと云。

〔倭訓栞中編三十〕おはね略○中 和名抄に蓄根をよめり、大根の義、大根は爾雅の注にみゆ、今音をよべり、菜菔蘿菔も同じ出羽にておはかたといひ、紅毛語ろうとらていすといふ。土おはねも同じ。尾州の宮しげ、關東のねりま、共に地名なり。波多野は相州也。自然生の物を賞す。江戸にはだなといふ。京になかねとし、大坂にはそねとす。膽吹より出る鼠大根は蔊菘、野大根は天巧菜也。伊吹山高島郡にあり、唐大根は罽賓菘、ほし大根は仙人骨也といへり。

〔日本書紀仁德〕三十年十一月庚申、天皇浮江幸山背。略○中 明日乘輿詣于筒城宮。喚皇后、皇后不參見、時天皇歌曰、鬼藝泥赴揶摩之呂謎能許久波茂知子智辭於朋泥佐和佐和珥。○下

〔藏玉和歌集春〕加賀御草 大根正月一日、大内にく大根なり。略